

—総括表—

◆ 事業計画

地域の現状と今後の方向性

磯子駅周辺は、公共施設や医療機関、スーパーなどの商業施設があり便利です。しかし、中高層住宅等では高齢者の孤立が目立ち、医療・食事・生活環境・経済的困難等の問題が多くみられます。
 駅から離れた丘陵地は、景観が良く、静かな住宅地が広がっています。しかし、公共交通の便が悪く、医療機関や商業施設が不足しているため、外出や買い物等の生活課題があります。現在、コンビニの移動販売、スーパーの買物バス運行サービスが始まっています。
 子どもに関しては、「子ども食堂」や区の事業である寄り添い型「学習支援事業」を通し、貧困・孤食などの問題が明らかになっているため、ボランティア中心で運営している、事業を支援します。
 コロナ禍での外出自粛や集う場が減ったことにより、高齢者の孤立・閉じこもり、身体機能や認知機能の低下、意欲低下、経済的な問題等が見られており、それに伴う相談も増加しています。
 コロナ禍で地域の繋がりが薄れている中で、更なる地域活動を推進するために、地域での見守りや介護予防、認知症予防、居場所づくりに努めていきます。そのための担い手支援も行います。

今年度の重点的な取組

新規	継続	—具体的な取組内容—
<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	地域のボランティアによる助けあいグループ「ちよこっとボランティアえがお」の運営を支援する。
<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	磯子浜東町内会、磯子浜西町内会、磯子山手町内会、プリリア自治会での介護予防教室の開催。
<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	小中学生の放課後の居場所としての「子ども食堂」や「学習の場」の運営を支援する。
<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	「セカンドライフプランニング講座」「いきいきライフ講座」の実施。 参加者に対して、ボランティア活動の周知・声かけを行う。担い手支援交流会の実施。
<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	高齢者虐待について、早期発見・適切な対応ができるよう、関係機関と連携を図る。 タイムリーに関係機関と連携しながら、支援方針の検討・情報共有を行い、支援体制の強化に努める。

◆ 事業報告・事業実績評価

振り返り

昨年度に続いて今年度もコロナ禍における数々の制限を受ける中で事業実施となりました。ケアプラザを利用する方からは事業実施について高い関心と期待が寄せられていることが感じられましたので「どのようにしたら何ができるのか」を常に念頭におき、感染防止に努めながらできる限りの事業を実施しました。
 『子育て支援』においては、塾に通えない小中学生を中心に放課後の居場所を主な目的とした学習支援活動がありますが、こちらについては、新しい担い手が増えたことや区内の他のケアプラザでの学習支援の立ち上げに際して、内容の紹介を行うなど活動の幅が広がりました。また子ども食堂活動については、コロナ禍における活動の可能性を模索するなかでテイクアウトで実施するなど継続できるよう支援してまいりました。
 『高齢者支援』の事業は、民生委員との連携が不可欠となりますので、民児協などに足を運び情報交換・共有の機会を設けるなど地域の方との協働の体制づくりに尽力してまいりました。また権利擁護等の講座を開催し高齢者やその支援者層への啓発に努めました。
 『地域支援』においては、昨年度立ち上がったちよこっとボランティアグループの活動が広く周知され、民生委員をはじめ、ケアマネジャーからも活動依頼が多く寄せられました。ケアプラザは事務局として、ボランティアの方が安心して活動できるように依頼者との円滑な橋渡しに努めてまいりました。
 『介護予防』教室は、コロナ禍での実施について時間や内容を見直すなど工夫を重ね既存教室の継続のために尽力してまいりました。コロナ禍での新たな試みとしては、地域の公園等屋外を活用したラジオ体操を2か所で定期開催し、そこから介護予防普及啓発と介護予防拠点づくりを目的に講座を実施し、その後2グループともほぼ自主化の運びとなりました。
 今年度は「第4期磯子区地域福祉保健計画」の最初の年でもあり、また区を中心とした地域支援チーム体制が始まった年でもありますので、計画の推進に向けて会議等の場を通じて区や区社協と協働で取り組んでまいりました。

区からのコメント

続くコロナ禍にあっても地域の方々の声を受け止め、子育て支援・高齢者支援の対象別には創意工夫しながら事業に取り組んで頂きました。
 地域支援については民生委員児童員協議会やボランティアグループと日常的な地道な連携により、新たな地域資源を丁寧に育んでおられます。4期地域福祉保健計画の地区別計画と地域支援チーム体制が2年目に入ります。個別の課題と地域の課題とを共有しながら、地域の方々が前向きに取り組んでいけるよう支援をお願いします。

特に、ちよこっとボランティアグループの活動は、コロナ禍においても着実に展開されています。幅広い世代のボランティア登録や、ボランティア同士の交流もあることが特徴的です。今後も、ますます重要度が高まるインフォーマルサービスのひとつとして継続していくとともに、モデル事例として、広く発信していただくことも期待しています。